

# 第16章 災害・消防・警察・海上保安

1	災 害	363
16-1	平成31（令和元）年中の台風・大雨等による被害状況	364
16-2	市町村別台風・大雨等による被害状況	364
16-3	年次別台風・大雨等被害状況	365
2	消 防	366
(1)	火災発生状況	
(2)	消 防 現 勢	
16-4	市町村別の火災発生状況	367
16-5	月別火災発生状況	367
16-6	原因別火災発生状況	368
16-7	大火災発生状況（損害額2,000万円以上）	368
16-8	消 防 現 勢	368
3	警 察	369
(1)	交通事故発生状況	
(2)	刑法犯発生状況	
16-9	市町村別交通事故発生状況	370
16-10	刑法犯市町村別発生状況	371
4	海 上 保 安	372
16-11	機動力（巡視船艇等）	372
16-12	法令違反別送致件数	373
16-13	海難の発生状況（海上における事故）	373
16-14	関係団体等	373
16-15	奄美海上保安部が管理する航路標識の市町村別設置状況	374



# 1 災 害

平成31（令和元）年は、著しい被害の発生する台風や大雨はほとんど発生しなかった。

被害額については、147,377千円となり、前年と比べて4,111,550千円の減となった。項目別では、公共土木施設被害が128,227千円（被害総額の87.0%）で最も多く、次いで農林水産業施設の16,846千円（同11.4%），となっている。

16-1 平成31（令和元）年中の台風・大雨等による被害状況（数値は市町村の報告による）

期 間	台 風 大 雨 等	人的被害（人）		住 家 被 害（棟）					非住家 被 害 （棟）
		死 亡 不 明	負 傷	全 壊	半 壊	一 部 破 損	床 上 浸 水	床 下 浸 水	
1. 4.28 ~ 5. 1	大 雨	0	0	0	0	0	0	0	0
1. 6. 9 ~ 6.10	大 雨	0	0	0	0	0	0	0	0
1. 6.21 ~ 6.23	大 雨	0	0	0	0	0	0	0	0
1. 6.26 ~ 6.27	大 雨	0	0	0	0	0	0	0	0
1. 8. 2 ~ 8. 3	大 雨	0	0	0	0	0	0	0	0
1. 8. 9	大 雨	0	0	0	0	0	0	0	1
1. 9. 7	台 風 1 3 号	0	0	0	0	0	0	0	0
1. 9.21	台 風 1 7 号	0	0	0	0	0	0	0	0
1.10.17	大 雨								
合 計		0	0	0	0	0	0	0	1

※期間は、災害警戒本部設置から廃止までの期間である。

16-2 市町村別台風・大雨等による被害状況（数値は市町村の報告による）

資料：大島支庁総務企画課  
 期間：平成31年1月～令和元年12月  
 単位：千円

区 分	人的被害	農林水産業	公 共 土 木	そ の 他 の	農 林 水 産	そ の 他	合 計
市町村名	（人）	施 設	施 設	公 共 施 設	被 害		
奄 美 市	0	16,846	58,280	0	2,304	0	77,430
大 和 村	0	0	0	0	0	0	0
宇 検 村	0	0	0	0	0	0	0
瀬 戸 内 町	0	0	47,450	0	0	0	47,450
龍 郷 町	0	0	0	0	0	0	0
喜 界 町	0	0	0	0	0	0	0
徳 之 島 町	0	0	0	0	0	0	0
天 城 町	0	0	22,497	0	0	0	22,497
伊 仙 町	0	0	0	0	0	0	0
和 泊 町	0	0	0	0	0	0	0
知 名 町	0	0	0	0	0	0	0
与 論 町	0	0	0	0	0	0	0
合 計	0	16,846	128,227	0	2,304	0	147,377

資料：大島支庁総務企画課  
 期間：平成31年1月～令和元年12月

被 害 金 額 (単位：千円)										備 考 被害地域等
農 林 水 産 業 施 設	公 共 土 木 施 設	そ の 他 の 公 共 施 設	農 産 被 害	林 産 被 害	畜 産 被 害	水 産 被 害	商 工 被 害	そ の 他	計	
0	58,280	0	0	0	0	0	0	0	0	奄美北部地域
0	32,530	0	0	0	0	0	0	0	0	奄美群島全域
0	31,663	0	0	0	0	0	0	0	0	奄美群島全域
16,846	0	0	0	0	0	0	0	0	0	奄美北部地域
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	奄美南部地域
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	奄美群島全域
0	5,754									奄美群島全域
0	0	0	2,304	0	0	0	0	0	0	奄美群島全域
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	奄美南部地域
16,846	128,227	0	2,304	0	0	0	0	0	147,377	

16-3 年次別台風・大雨等被害状況 (数値は市町村の報告による)

資料：大島支庁総務企画課  
 期間：各年1月～12月  
 単位：千円

年次	区分	住家等	農林水産業	公共土木	その他の	農林水産	その他	合計
	施設		施設	公共施設	被害			
平成 19	—	—	20,130	333,400	87,607	216,495	47,230	704,862
20	—	—	34,742	100,547	2,000	682	176	138,147
21	—	—	26,162	899	6,290	68,897	570	102,818
22	—	—	3,114,301	2,995,324	388,800	222,117	1,273,876	7,994,418
23	—	—	1,062,056	1,547,635	500,010	2,052,668	766,042	5,928,411
24	—	—	1,453,380	2,722,122	604,918	2,339,458	614,400	7,734,276
25	—	—	261,886	32,450	74,813	363,302	155,350	887,801
26	—	—	15,141	166,968	24,805	785,791	39,995	1,032,700
27	—	—	6,108	29,714	4,608	285,675	0	326,105
28	—	—	15,707	19,172	0	28,944	0	63,823
29	—	—	123,580	86,646	8,932	771,286	26,730	1,017,174
30	—	—	681,963	620,697	227,411	2,548,637	180,219	4,258,927
令和 1	—	—	16,846	128,227	0	2,304	0	147,377

(注)「住家等」については、平成16年度以降、集計されていない。

## 2 消 防

### (1) 火災発生状況

平成30年中の火災発生件数は70件で、前年に比べ4件増加しており、5.2日に1件の割合で火災が発生したことになる。

市町村別では、奄美市が22件（奄美群島全火災の31.4%）で最も多く、次いで、瀬戸内町・龍郷町各6件、喜界町・天城町・伊仙町各5件、宇検村・徳之島町・和泊町・知名町・与論町各4件、大和村1件の順となっている。

人口（平成30年1月1日住民基本台帳による）1万人当たりの出火件数を表す出火率では、宇検村の22.5が最も高く、次いで龍郷町の9.9、天城町の8.2の順となっている。

火災種別にみると、「建物」火災が29件（奄美群島全火災の41.4%）で、前年に比べ5件の増加、「林野」火災が2件（同2.9%）で、前年に比べ2件の増加、「車両」火災が8件（同11.4%）で、前年に比べ1件の増加、「船舶」火災が0件で、前年に比べ1件の減少、「航空機」火災が0件、「その他」火災（田畑の野焼き等の火災）が31件（同44.3%）で、前年に比べ3件の減少となっている。

火災による死者は0人で、前年に比べ2人の減少である。また、負傷者7人で前年に比べ4人の増加となっている。

焼損棟数は80棟で前年に比べ37棟の増加、り災世帯数は45世帯で前年に比べ29世帯の増加、り災人員は80人で前年に比べ52人の増加となっている。

損害額は191,761千円で、前年に比べ67,626千円の増加で、火災1件当たり約2,739千円、1日当たり約525千円が灰になったことになる。

損害額2千万円以上の大きな火災は、奄美市・知名町・和泊町で各1件発生している。

出火原因では、「たき火」が13件（奄美群島全火災の18.6%）で最も多く、次いで「放火の疑い」が7件（同10.0%）、「火入れ」「たばこ」「電灯電話等の配線」「電気機器」が各4件（同5.7%）の順となっている。

### (2) 消 防 現 勢

消防本部数は平成31年4月1日現在で前年と変わらず3本部となっている。消防職員数については3人増加しており247人、条例定員に対する充足率は、99.6%である。

また、消防吏員247人の平均年齢は37.7歳となっている。

消防団数は12団、消防分団数は92分団である。消防団員は、1,504人で前年に比べ13人減少し、平均年齢は42.1歳で条例定員に対する充足率は89.2%となっている。

各消防本部が管理する消防ポンプ自動車、小型動力ポンプ等の消防機械のうち、消防ポンプ自動車の充足率は100%（平成27年4月1日時点）となっており、救急自動車の所有台数は前年と同数で21台となっている。

また、火災鎮圧のため必要不可欠な消防水利については、平成27年4月1日時点で充足率75.9%となっている。

消防ポンプ自動車及び消防水利充足率の県平均は、消防ポンプ自動車が88.0%、消防水利が65.5%であり、消防ポンプ自動車充足率、消防水利充足率ともに県平均以上となっている。

### 16-4 市町村別の火災発生状況

資料：鹿児島県消防保安課  
期間：平成30年1月～12月

市町村名	出火件数							損害額(千円)							
	計	建物	林野	車両	船舶	航空機	その他	計	建物	林野	車両	船舶	航空機	その他	爆発
大島地区	奄美市	22	4		4			14	45,496	43,332		2,164			
	大和村	1	1						3,624	3,624					
	宇検村	4			1			3	486		486				
	瀬戸内町	6	3	1				2	1,573	1,573					
	龍郷町	6	4	1				1	37,877	37,863				14	
	喜界町	5	2					3	6,368	3,159				494	2,715
	計	44	14	2	5	0	0	23	95,424	89,551	0	2,650	0	508	2,715
徳之島	徳之島町	4	2		1			1	634	629		5			
	天城町	5	3		1			1	20,250	19,701		540			9
	伊仙町	5	1		1			3	1,618	698		450			470
	計	14	6	0	3	0	0	5	22,502	21,028	0	995	0	0	479
沖与論	和泊町	4	4						47,780	47,780					
	知名町	4	3					1	23,080	23,064					16
	与論町	4	2					2	2,975	2,627		225			123
	計	12	9	0	0	0	0	3	73,835	73,471	0	225	0	0	139
	合計	70	29	2	8	0	0	31	191,761	184,050	0	3,870	0	0	1,126
	平成29年	66	24	0	7	1	0	34	124,135	113,190	0	9,874	200	0	871
	比較	4	5	2	1	△1	0	△3	67,626	70,860	0	△6,004	△200	0	255

市町村名	焼損棟数					り災世帯数				り災人員	死傷者		損害面積		1件当たりの損害額(千円)
	計	全焼	半焼	部分焼	ぼや	計	全損	半損	小損		死者	負傷者	建物床面(m <sup>2</sup> )	林野(a)	
大島地区	奄美市	25	18		7					23			1,826		2,068
	大和村														3,624
	宇検村														122
	瀬戸内町	2	1			1	1			1	1	93	18	262	
	龍郷町	28	18	1	6	3	16	11	4	26		1,352	6	6,313	
	喜界町	2	2				1	1		2		174		1,274	
	計	57	39	1	13	4	31	21	9	52	0	3,445	24	2,169	
徳之島	徳之島町	3	2		1						1	109		159	
	天城町	6	1	1	4		3	1	2	7	2	236		4050	
	伊仙町	2	2				1	1		2		276		324	
	計	11	5	1	5	0	4	2	2	9	0	621	0	1,607	
沖与論	和泊町	4	3	1			4	4		8	1	1,300		11,945	
	知名町	5	3		1	1	5	3		9	2	926		5,770	
	与論町	3	2			1	1	1		2		251		744	
	計	12	8	1	1	2	10	8	0	19	0	2,477	0	6,153	
	合計	80	52	3	19	6	45	31	13	80	0	6,543	24	2,739	
	平成29年	43	22	4	9	8	16	10	2	4	2	1,835	0	14,240	
	比較	37	30	△1	10	△2	29	21	△1	9	52	△2	4	4708	

※火災種別が2以上重複する火災は、焼き損害額の大なるものの種別に計上。

### 16-5 月別火災発生状況

資料：鹿児島県消防保安課  
期間：平成30年1月～12月

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
件数	4	3	5	6	4	1	10	8	3	17	5	4	70
前年件数	8	15	3	5	9	1	3	5	4	6	6	4	66
増減数	△4	△12	2	1	△5	0	7	3	△1	11	△1	0	4

16-6 原因別火災発生状況

資料：鹿児島県消防保安課  
期間：平成30年1月～12月

順位	(1)	(2)	(3)	(3)	(3)	(3)	(7)	(8)	(8)	(10)	(10)	(10)	(10)	(10)	(10)	(10)	—	—	計	
	たき火	放火の疑い	火入れ	たばこ	電灯電話等の配線	電気機器	排気管	こんろ	風呂かまど	マッチ・ライター	ストーブ	焼却炉	放火	電気装置	灯火	火あそび	その他	不明・調査中		
件数	13	7	4	4	4	4	3	2	2	1	1	1	1	1	1	1	3	17	70	
前年件数	8	3	17	4	3	1	2	1	1	2	1	1	1	0	0	0	0	6	9	66
前年順位	(2)	(4)	(1)	(3)	(4)	(9)	(6)	(9)	(9)	(6)	(9)	(9)	(9)				—	—		
増減数	5	4	△13	0	1	3	1	1	1	△1	0	0	0	1	1	1	△3	8	4	

16-7 大火災発生状況（損害額2,000万円以上）

資料：鹿児島県消防保安課  
期間：平成30年1月～12月

出火月日	出火時刻	市町村名	火元の用途	原因	焼損棟数	り災世帯	り災人員	死者	負傷者	焼損床面積(m <sup>2</sup> )	損害額(千円)
1月27日	3:30	奄美市	専用住宅	不明	22	12	22	0	0	1,717.54	32,137
9月19日	13:45	知名町	住宅	ライター	3	3	7	0	0	917.33	22,109
10月12日	19:50	和泊町	一般倉庫	電灯電話等の配線	1	1	1	0	0	670	43,374

16-8 消防現勢

資料：鹿児島県消防保安課  
期日：平成31年4月1日

区分 市町村名	消防団(消防本部)		消防団(職員)			消防ポンプ等							消防水利				
	団・本部数	分団数	条 例 定 数	現 員	平 均 年 齢	自消 防 動 車 数	ボ ン プ 自 動 消 防 車 数	付 は 消 防 自 動 消 防 車 数	小 型 動 力 ボ ン プ 数	救 急 自 動 車 数	そ の 他 数	ボ ン プ 自 動 車 充 足 率	消 火 栓 数	防 火 水 そう 他 数	そ の 他 数	充 足 率	
奄美市	1	16	452	396	44.5	8	3	-	41	2	-	3	-	466	146	31	-
大和村	1	5	52	47	39.6	1	1	-	10	-	-	-	-	-	28	9	-
宇検村	1	7	92	90	42.1	1	1	-	7	-	-	-	-	6	31	2	-
瀬戸内町	1	6	155	119	45.8	1	1	-	15	26	-	1	-	65	65	4	-
龍郷町	1	4	153	139	41.7	1	3	-	10	-	-	1	-	49	69	5	-
喜界町	1	9	130	108	40.3	2	1	-	6	1	-	4	-	92	127	4	-
大島地区消防組合	1	-	158	157	38.8	2	5	2	1	-	13	12	100	-	-	-	81.8
徳之島町	1	11	161	149	42.1	1	5	-	11	-	-	1	-	29	92	11	-
天城町	1	3	80	74	42.3	1	1	-	-	-	-	2	-	56	59	16	-
伊仙町	1	8	74	68	42.9	1	2	-	1	-	-	1	-	31	52	-	-
徳之島地区消防組合	1	-	49	49	36.9	-	3	-	-	-	4	1	100	-	-	-	76.6
和泊町	1	7	120	113	38.5	1	6	-	4	1	-	2	-	120	80	95	-
知名町	1	13	145	140	37.1	2	7	-	5	-	-	-	-	126	128	4	-
与論町	1	3	72	61	41.5	1	3	-	-	-	-	-	-	64	75	29	-
沖永良部与論地区 広域事務組合	1	-	41	41	34.2	-	2	-	-	-	4	3	100	-	-	-	69.3
(本部)	-	-	248	247	37.7	2	10	2	1	-	21	16	100	-	-	-	75.9
計	団12	92	1,686	1,504	42.1	21	34	-	110	30	-	15	-	1,104	952	210	-

注1 消防職員の平均年齢は消防吏員の平均である。  
注2 救急自動車は平成30年4月1日時点の数値、ポンプ自動車充足率及び消防水利充足率は、平成27年4月1日時点の数値である。



## 3 警 察

### (1) 交通事故発生状況

平成31（令和元）年の交通事故の人身事故発生件数は、136件で前年に比べ12件減少した。

交通事故による死者は3人で、前年に比べ6人減少、傷者については146人で19人減少した。

件数を市町村別にみると、奄美群島で件数の最も多いのは奄美市の58件（全体の42.6%）で、次いで徳之島町の16件（同11.8%）となっている。

また、島別に件数の割合をみると、奄美大島が78件（全体の57.4%）、喜界島が6件（同4.4%）、徳之島が30件（同22.1%）、沖永良部島が14件（同10.3%）、与論島が8件（同5.9%）となっている。

死者は、龍郷町1人、和泊町1人、与論町1人の合計3人となっている。

### (2) 刑法犯発生状況

平成30年の刑法犯の総認知件数は、301件で前年に比べ64件の減少となっている。

市町村別にみると件数が最も多いのが、奄美市の121件（全体の40.2%）で前年と比べると37件の減少、次いで徳之島町の41件（13.6%）で5件の減少となっている。

罪種別にみると、窃盗犯が180件で全体の59.8%を占めている。

なお、検挙件数は162件となっている。

# 16-9 市町村別交通事故発生状況

期間：平成31年1月～令和元年12月  
 単位：人，件，台数

区分 市町村名	人口	件数 (人身)	死者	傷者	前年比増減			自動車保有車両数			人口1万人 当たりの 死傷者数
					件数 (人身)	死者	傷者	貨物・乗合・乗用・特種用 途・二輪数	軽自動車数	合計	
<b>総数</b>	105,066	136	3	146	-12	-6	-19	27,024	58,480	85,504	14.2
<b>奄美大島</b>	59,165	78	1	88	-10	-2	-15	14,990	27,981	42,971	15.0
奄美市	41,744	58	0	66	1	-2	0	10,331	19,238	29,569	15.8
大和村	1,411	0	0	0	0	0	0	495	764	1,259	0
宇検村	1,639	1	0	2	0	0	1	506	900	1,406	12.2
瀬戸内町	8,643	12	0	12	-3	0	-4	2,155	3,817	5,972	13.9
龍郷町	5,728	7	1	8	-8	0	-12	1,503	3,262	4,765	15.7
<b>喜界島</b>	6,712	6	0	6	4	0	4	1,471	4,339	5,810	8.9
喜界町	6,712	6	0	6	4	0	4	1,471	4,339	5,810	8.9
<b>徳之島</b>	22,002	30	0	31	-2	-4	0	6,168	15,807	21,975	14.1
徳之島町	10,339	16	0	17	-4	-2	-2	2,667	6,611	9,278	16.4
天城町	5,608	7	0	7	1	-1	0	1,817	4,457	6,274	12.5
伊仙町	6,055	7	0	7	1	-1	2	1,684	4,739	6,423	11.6
<b>沖永良部島</b>	12,155	14	1	14	-4	-1	-6	3,434	7,535	10,969	12.3
和泊町	6,364	8	1	7	-2	1	-7	1,922	3,869	5,791	12.6
知名町	5,791	6	0	7	-2	-2	1	1,512	3,666	5,178	12.1
<b>与論島</b>	5,032	8	1	7	0	1	-2	961	2,818	3,779	15.9
与論町	5,032	8	1	7	0	1	-2	961	2,818	3,779	15.9

注1 人口は令和元年10月1日現在推計人口（県統計課資料）  
 2 件数，死者，傷者は令和元年12月末現在（県警察本部交通企画課）  
 3 車両台数は平成31年3月末現在（第4章72ページ自動車保有車両数より）ただし，不明分，軽二輪は除く。  
 4 奄美大島には，加計呂麻島，請島，与路島を含む。

## 16-10 刑法犯市町村別発生状況

資料：鹿児島県警察本部刑事企画課  
期間：平成30年1月～12月

市区町村	包括罪種		凶悪犯	粗暴犯	窃盗犯	知能犯	風俗犯	その他の 刑法犯	総計	平成29年 の状況
奄美市	認知		0	22	71	14	1	13	121	158
	検挙		0	18	31	14	2	5	70	81
大和村	認知		0	0	0	0	0	0	0	4
	検挙		0	0	0	0	0	0	0	2
宇検村	認知		0	0	2	0	0	1	3	19
	検挙		0	0	3	0	0	2	5	3
瀬戸内町	認知		1	3	22	1	0	5	32	34
	検挙		1	2	15	0	0	2	20	15
龍郷町	認知		0	3	11	0	0	4	18	17
	検挙		0	3	7	0	0	0	10	9
喜界町	認知		0	0	5	0	0	4	9	19
	検挙		0	0	3	0	0	0	3	5
徳之島町	認知		0	6	20	3	0	12	41	46
	検挙		0	6	8	2	0	6	22	29
天城町	認知		0	2	16	2	0	3	23	18
	検挙		0	3	4	1	0	3	11	6
伊仙町	認知		1	2	7	0	0	2	12	7
	検挙		0	2	0	0	0	1	3	6
和泊町	認知		0	2	9	1	0	0	12	19
	検挙		0	2	2	0	0	0	4	10
知名町	認知		1	3	12	0	1	4	21	20
	検挙		1	3	5	0	1	1	11	7
与論町	認知		0	2	5	0	1	1	9	4
	検挙		0	2	0	0	1	0	3	4
総計	認知		3	45	180	21	3	49	301	365
	検挙		2	41	78	17	4	20	162	177

※検挙件数については、発生地計上方式をとっている。

### 包括罪種の内訳

- 凶悪犯……殺人，強盗，放火，強制性行等
- 粗暴犯……暴行・傷害，脅迫，恐喝，凶器準備集合
- 窃盗犯……窃盗
- 知能犯……詐欺，横領，偽造など
- 風俗犯……賭博，わいせつ
- その他の刑法犯……上記以外の刑法犯

## 4 海上保安

海上保安庁の事務所として奄美海上保安部（奄美市）及び古仁屋海上保安署（瀬戸内町）を置き、巡視船艇等4隻の機動力を活用して、奄美群島地域における「安全・安心で美しい海」を守り、未来に引き継いでいくため、海上における各種法令違反の取締り、領海警備、海難救助、海洋環境の保全活動、自然災害対応、離島間の急患搬送、海難防止活動、航路標識の管理等の交通施策などに取り組んでいる。

管轄する奄美群島地域は、南北約220km東西約300kmの広範な海域に及び、何れも外海に点在する島々からなるという地理的な特徴を持っていることから、迅速かつ円滑な業務の遂行のために、各市町村、警察、消防、漁業協同組合等の関係機関と連携を図っている。

平成30年の法令違反の送致件数は、17件であった。過去には大規模な密輸や密航事犯も発生していることから、沿岸域での不審情報の収集や巡視船艇による周辺海域のしょう戒を重点的に展開し、各種法令違反の取締りを強化している。

また、海の事件・事故を認めるときは「海のもしもは118番」の緊急通報用電話番号の活用を推進している。

平成30年の海難の発生状況は、船舶事故が23隻であり前年に比べ12件増加し、人身事故が23名であり前年に比べ1名増加した。海難への対応としては、直接の対応の他、水難救済会との連携した救助活動を、油排出事故等への対応としては奄美群島排出油等防除協議会と協力して防除活動を行っている。

特に、奄美群島排出油等防除協議会は、6つの支部があり、各支部において地域の防除技術の向上を図るため、各種訓練及び講習会を行っている。また、「未来に残そう青い海」をスローガンに海洋環境保全を推進するため小中学生とともに海浜清掃活動や漂着ごみの分類調査等を行っている。

船舶事故を種類別に見ると乗揚が多く、水深が分かりにくいリーフ海域の特徴となっている。原因別では、見張不十分、操船不適切、船位不確認などの人的ミスによるものが大半を占めているため、操船者の注意を促すための海難防止講習会等を実施している。特に、管内では漁船海難の割合が高いことから、奄美群島の各漁業協同組合の総会において海難防止講習会や、大島支庁が実施する漁船登録の検認に同行し海難防止指導を実施するなど、特に力を入れて取り組んでいる。

また、プレジャーボートの海難防止に関しては、民間有志による安全活動を目的に発足した海上安全指導員制度により、第十管区海上保安部長の指定を受けた8名の海上安全指導員（うち1名は主任海上安全指導員）が、海上における小型船による事故の未然防止を図るための活動を実施している。

人身事故については、マリレジャー中の事故が多く、種類別としては、前年と変わらず、遊泳中や磯遊び中の事故割合が高く、遊泳や磯遊びを安全に行うための地域特性に関する知識不足やスノーケル使用時の技能が不足していることが主な原因となっており、群島外からの観光客等による事故が多く発生する傾向にあることから、観光客等に安全啓発に係る情報提供を早く確実に行うため各島の観光連盟（協会）等関係機関とも連携強化を図っているほか、リーフレットやステッカーをホテル、バス、フェリー等、観光客が目につきやすいところへ貼付することにより、事故防止に係る周知啓発をおこなっている。

名瀬港は特定港であり、奄美海上保安部長は港則法に基づき名瀬港長として、港内における海上工事や行事の許可、危険物荷役の許可等、船舶交通の安全及び港内の整とんを図るための業務を行っている。

船舶交通の安全確保と運行能率の向上を図るために重要な、灯台をはじめとする各種航路標識の管理・運用を行っており、管内で最っとも歴史の古い曾津高埼灯台（明治29年11月初点）を初めとする灯台27基、導灯5基・指向灯2基・照射灯1基の合計35基となっている。そのうち半数以上は太陽電池化及びLED化されている。

また、奄美海上保安部では海の安全に関する情報を提供する業務を行っている。

航海の安全確保、マリレジャーでの事故の未然防止のために、灯台で観測した風向、風速、気圧などの局地的な気象、海象の状況、海上工事や行事の状況、海上模様が把握できるライブカメラなどの情報を、プレジャーボート、漁船等の船舶運航者やマリレジャー愛好者に対して、「海の安全情報」としてパソコン、スマートフォン用サイトで提供しているほか、24時間体制で海上保安庁が発表する緊急情報等を、事前に登録されたメールアドレスに電子メールで配信するサービスの提供を行っている。

### 16-11 機動力（巡視船艇等）

資料：奄美海上保安部  
期日：令和元年10月31日

船名	所属	総トン数	航行区域	就役年月
あまぎ	奄美海上保安部	1320	近海	平成22年3月
かいもん	奄美海上保安部	220	近海	平成16年4月
いそなみ	古仁屋海上保安署	105	近海	平成26年1月
ばるさあ	古仁屋海上保安署	4.7	沿海	平成8月3月

## 16-12 法令違反別送致件数

資料：奄美海上保安部  
期日：令和元年10月31日  
(件)

	海事関係法令	漁業関係法令	海上環境法令	刑法犯	その他の法令	合計
平成28年	3	0	0	4	0	7
平成29年	7	0	0	5	5	17
平成30年	11	0	4	1	1	17

## 16-13 海難の発生状況（海上における事故）

資料：奄美海上保安部

### (ア) 船舶事故の隻数等の推移

年	項目	事故隻数（隻）	死亡・行方不明者数（人）
平成28年		13	0
平成29年		11	1
平成30年		23	0

### (イ) 船舶事故の種類別内訳

(隻)

年	種類	衝突	乗揚	転覆	火災	浸水	機関故障	推進器障害	運航阻害	行方不明	その他	合計
平成28年		6	2	0	0	0	2	1	0	0	2	13
平成29年		0	6	0	0	2	1	0	1	1	0	11
平成30年		2	5	3	0	3	3	1	0	0	6	23

### (ウ) 人身事故の人数の推移

(人)

年	項目	事故者数	死亡・行方不明者数
平成28年		26	14
平成29年		22	11
平成30年		23	9

(注) 死亡・行方不明者数は、事故者数の内数

### (エ) 人身事故の種類別内訳

(人)

年	船舶乗船中の人身事故					海浜事故				合計
	海中転落	負傷	病気	中毒	その他	遊泳中	磯遊び中	釣り中	その他	
平成28年	1	6	3	0	1	4	1	1	9	26
平成29年	0	0	2	0	0	8	1	0	11	22
平成30年	1	4	0	0	0	8	0	3	7	23

## 16-14 関係団体等

### (ア) 奄美群島排出油等防除協議会

資料：奄美海上保安部  
期日：令和元年10月31日

支部名	参加機関団体数	支部名	参加機関団体数
奄美支部	30	瀬戸内支部	25
徳之島支部	17	沖永良部支部	18
与論支部	10	喜界島	11

### (イ) 奄美群島地区スキューバダイビング安全対策協議会

資料：奄美海上保安部  
期日：令和元年10月31日

会長名	事業所名	加入団体数	設立年月
中田留弘	奄美ダイビングセンターとめ	40	平成元年4月

(ウ) 小型船交通安全協議会

資料：奄美海上保安部  
期日：令和元年10月31日

組織の名称	会員数	設立年月日	主な活動海域
奄美地区小型船交通安全協議会	202名	昭和49年12月17日	奄美大島（奄美市名瀬）
喜界島地区小型船交通安全協議会	23名	平成5年9月27日	喜界島周辺
瀬戸内町小型船舶交通安全協議会	18名	昭和57年10月6日	瀬戸内町周辺海域

(エ) 民間救助組織

資料：鹿児島県水難救済会  
期日：平成31年3月31日

設立年月日	組織の名称	代表者	住所	救助勢力
平成7年1月31日	与論救難所	山元宗	鹿児島県大島郡与論町茶花32-1	人員 45名
平成9年1月30日	和泊救難所	伊地知実利	鹿児島県大島郡和泊町和泊10	人員 29名
平成9年1月30日	知名救難所	今井力夫	鹿児島県大島郡知名町知名307	人員 40名
平成10年7月7日	喜界救難所	川島健勇	鹿児島県大島郡喜界町湾1746番地	人員 92名
平成11年8月12日	天城救難所	森田弘光	鹿児島県大島郡天城町平土野2691-1	人員 31名
平成12年11月1日	伊仙救難所	大久保明	鹿児島県大島郡伊仙町伊仙1842	人員 102名
平成13年5月28日	龍郷救難所	竹田泰典	鹿児島県大島郡龍郷町浦110	人員 240名
平成13年12月1日 (平成19年3月19日)	奄美市救難所 住用支所	朝山毅	鹿児島県奄美市住用町大字西仲間111	人員 26名
平成13年12月27日 (平成19年3月19日)	奄美市救難所 笠利支所	朝山毅	鹿児島県奄美市笠利町大字中金久141	人員 65名
平成14年1月1日	宇検村救難所	元山公知	鹿児島県大島郡宇検村湯湾915	人員 143名
平成14年3月4日	大和救難所	伊集院幼	鹿児島県大島郡大和村大和浜100	人員 193名
平成14年4月1日 (平成19年3月19日)	奄美市救難所 名瀬支所	朝山毅	鹿児島県奄美市名瀬幸町25-8	人員 74名
平成14年4月1日	瀬戸内救難所	鎌田愛人	鹿児島県大島郡瀬戸内町古仁屋船津23	人員 159名
平成14年7月1日	徳之島町救難所	高岡秀規	鹿児島県大島郡徳之島町亀津7203	人員 61名

(注) 奄美市救難所各支所の上段の年月日は改組前のもの

16-15 奄美海上保安部が管理する航路標識の市町村別設置状況

資料：奄美海上保安部  
期日：令和元年10月31日  
単位：基

市町村別	区分	灯	台	導	灯	指	向	灯	照	射	灯	計
(奄美大島)			14		1				1			16
奄美市			6		1							7
大和村			1									1
宇検村												
瀬戸内町			6									6
龍郷町			1						1			2
(喜界島)			4									4
喜界町			4									4
(徳之島)			5		1							6
徳之島町			2		1							3
天城町			2									2
伊仙町			1									1
(沖永良部島)			2		2		1					5
和泊町			1		2							3
知名町			1				1					2
(与論島)			2		1		1					4
与論町			2		1		1					4
合計			27		5		2		1			35

(注) 奄美大島には、加計呂麻島、請島、与路島を含む。